

文教委員会資料

所管事務の調査（報告）

今後の部活動の在り方の検討における取組状況について

資料 今後の部活動の在り方の検討における取組状況について

令和7年8月21日
教育委員会事務局

1	これまでの経過	3
2	意見聴取の概要	4
3	STEP1 様々な意見を聞く「アンケートの実施（概要）」	5
4	STEP 2 生徒同士で対話を行い意見を集約する	1 1
5	STEP 3 代表生徒が今後の部活動に対する意見をまとめる	1 3
	STEP 3 部活動生徒代表者会議の結果	1 4
6	今後の予定について	1 5
	参考資料	1 6

1 これまでの経過

○現状

本市では、平成30年5月に「**川崎市立学校の部活動に係る方針**」を策定し、本方針に基づき、各学校ごとに活動方針を定め、生徒の健全な成長とバランスのとれた生活に配慮しながら部活動を実施している。

○課題

- ①部活動における**生徒や保護者のニーズが多様化**していること
- ②部活動を担える職員数の減少による部活動指導における教員負担の増等により存続できない部活動が増えるなど**現在の部活動の環境が持続できなくなる恐れがあること**
- ③文部科学省から休日の部活動の地域移行についての考え方が示されているが、本市において実施するためには**地域指導者の確保や担い手となる地域クラブ等の育成が必要**であること

○アンケートの実施

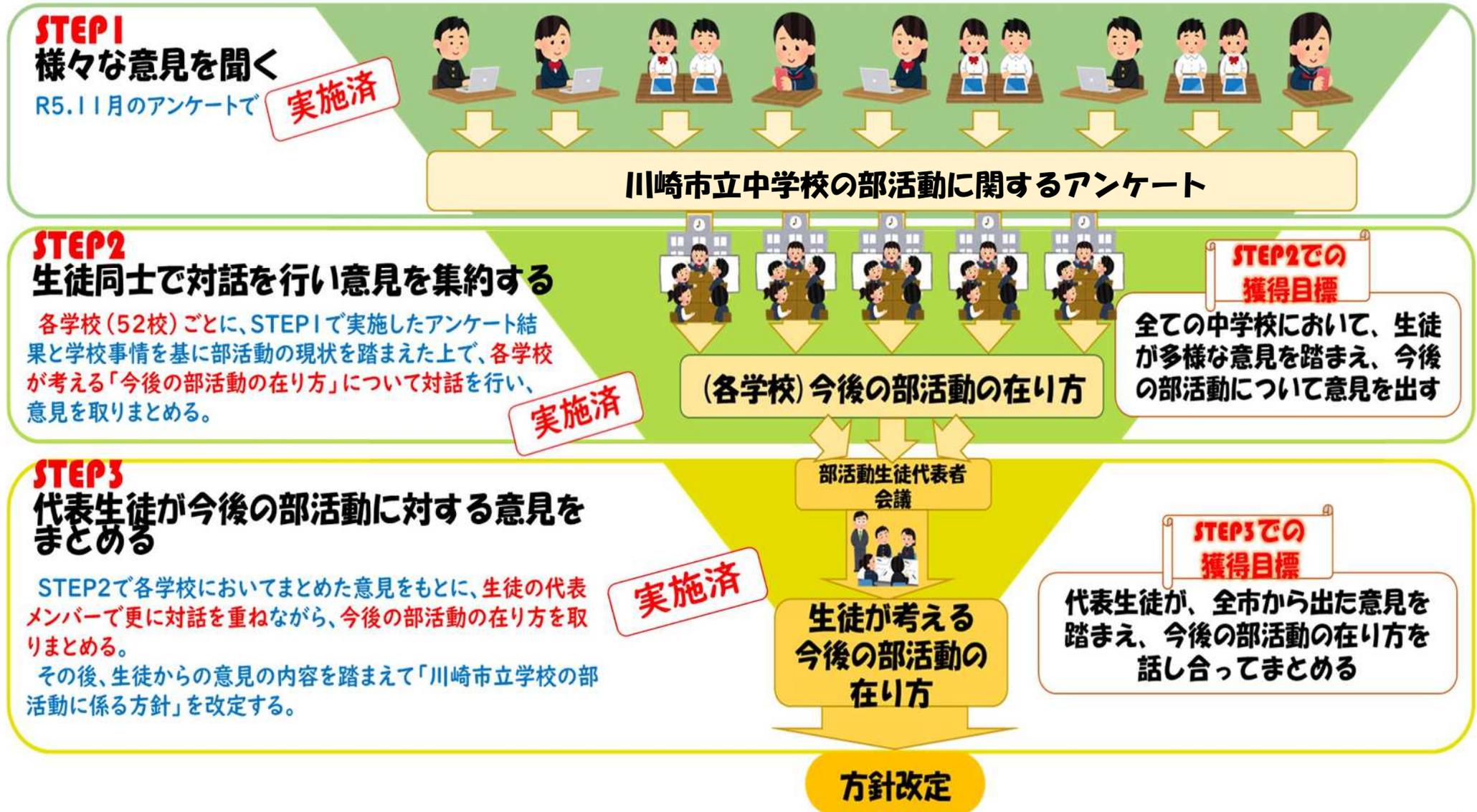
今後の部活動の在り方を検討するに当たり、最新の部活動の現状や関係者の声を把握するため、令和5年11月に**市立中学校の全生徒、教員、保護者を対象にアンケートを実施**

○生徒からの意見聴取

アンケート結果から、部活動に対する思いが多様化していたことから、さらに、部活動の主体である**生徒が主体的に考え、まとめた意見を踏まえ、今後の部活動の在り方を検討する。**

2 意見聴取の概要

これまで次の3つのステップに沿って取組を進めてきた。



3 STEP1 様々な意見を聞く「アンケートの実施（概要）」

令和5年11月から12月に市立中学校の全生徒とその保護者及び教員を対象に「川崎市立中学校の部活動に関するアンケート」を実施した。

1 調査対象

市立中学校に通う全生徒、保護者、教員

2 実施期間

令和5年11月16日（木）から30日（木）まで
※生徒と教員は12月8日（金）まで

3 回答者数等

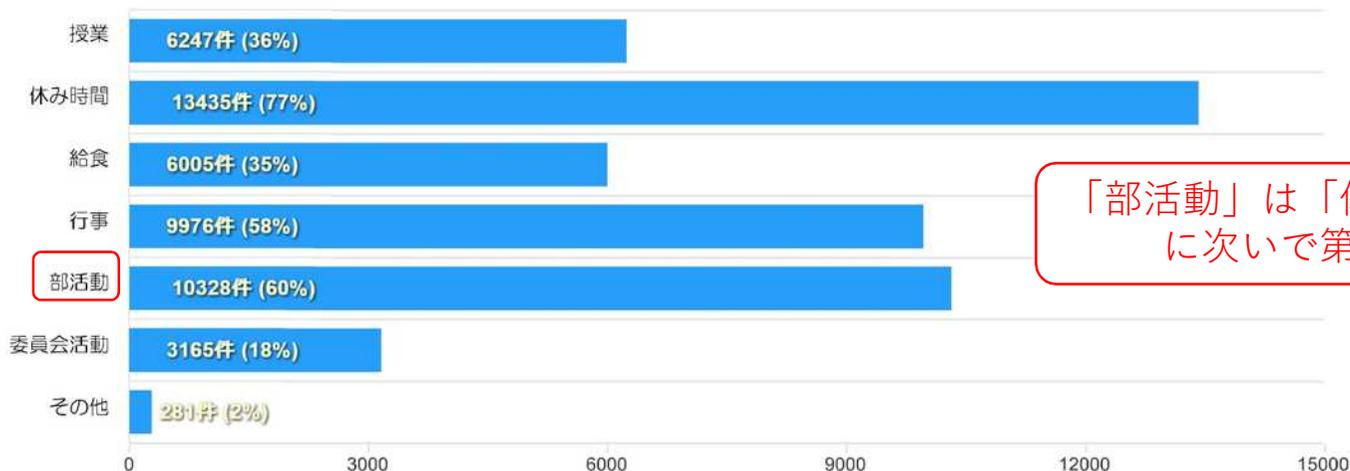
	対象者数※	回答者数	回答率
生徒	29,832人	23,395人	78%
保護者	29,832人	13,040人	44%
教員	1,589人	1,364人	86%

※管理職・産休者・育休者・休職者は除く。

3 STEP1 様々な意見を聞く「アンケートの実施（概要）」

(1) 学校生活で部活動が占める位置について

学校生活の中で充実していると感じる時間はどの時間ですか（複数回答可）（生徒）



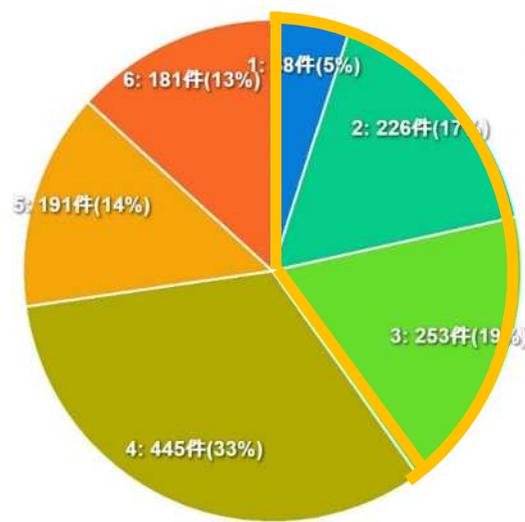
「部活動」は「休み時間」に次いで第2位

(2) 顧問教員の競技経験等について

担当している部活動の競技・活動経験（教員）

教員経験年数（臨時的任用期間を含む）

経験の有無が、約半数ずつ



- 1. 1年未満
- 2. 1年以上5年未満
- 3. 5年以上10年未満
- 4. 10年以上20年未満
- 5. 20年以上30年未満
- 6. 30年以上

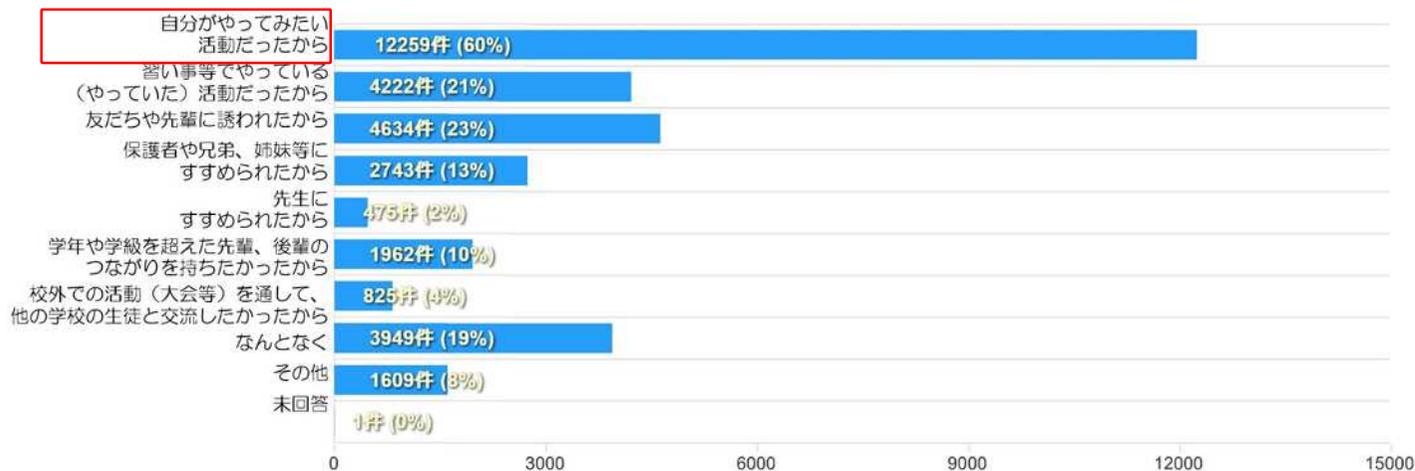
10年未満の経験が浅い教員 (41%)

※小数点以下第1位を四捨五入しているため、内訳の合計は必ずしも100%とにならない（以下同じ）。

3 STEP1 様々な意見を聞く「アンケートの実施（概要）」

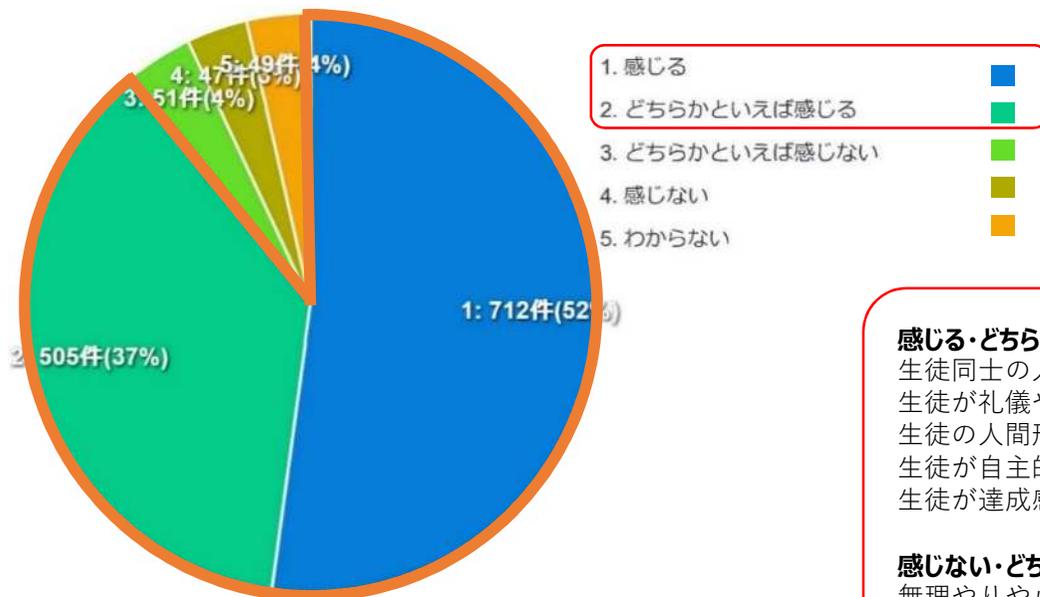
(3) 入部の動機について

所属する部活動に入部した理由は何ですか（複数回答可）（生徒）



(4) 部活動の教育的意義について

部活動に教育的意義を感じますか（教員）



教員の89%が部活動に教育的意義を「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答

感じる・どちらかといえば感じるを選んだ人が重点を置く指導（複数回答可）

- 生徒同士の人間関係づくりやコミュニケーション能力の向上を目指す（75%）
- 生徒が礼儀やマナーなど、社会で必要なことを身に付けられる（75%）
- 生徒の人間形成を目指す（72%）
- 生徒が自主的・自発的に活動できるようにする（71%）
- 生徒が達成感を感じることができる（71%）

感じない・どちらかといえば感じないを選んだ理由（自由記述）

- 無理やりやらされていて主体性を感じない生徒もいる
- メリットもあるがデメリットの方が大きい
- 親にやらされ続けている生徒もいる

3 STEP1 様々な意見を聞く「アンケートの実施（概要）」

(5) 部活動を通して得たことについて（生徒のみ・複数回答可）

部活動を通して得たことは何ですか

選択肢	割合
体力・技能が向上した	70%
規律や礼儀作法が身についた	47%
スポーツや文化芸術の楽しさを味わえた	46%

※上位3項目を表示

(6) 部活動で身に付けて欲しいことについて（保護者のみ・複数回答可）

お子さんに部活動を通して主に身に付けて欲しいことはなんですか

選択肢	割合
目標に向かって努力する姿勢	77%
思いやりの心や協力する姿勢	63%
体力・技能	61%

※上位3項目を表示

生徒は、「部活動を通して得たこと」で「体力・技能が向上した」こと、保護者は「部活動で身に付けて欲しいこと」で「目標に向かって努力する姿勢」がそれぞれ高い割合を示している。

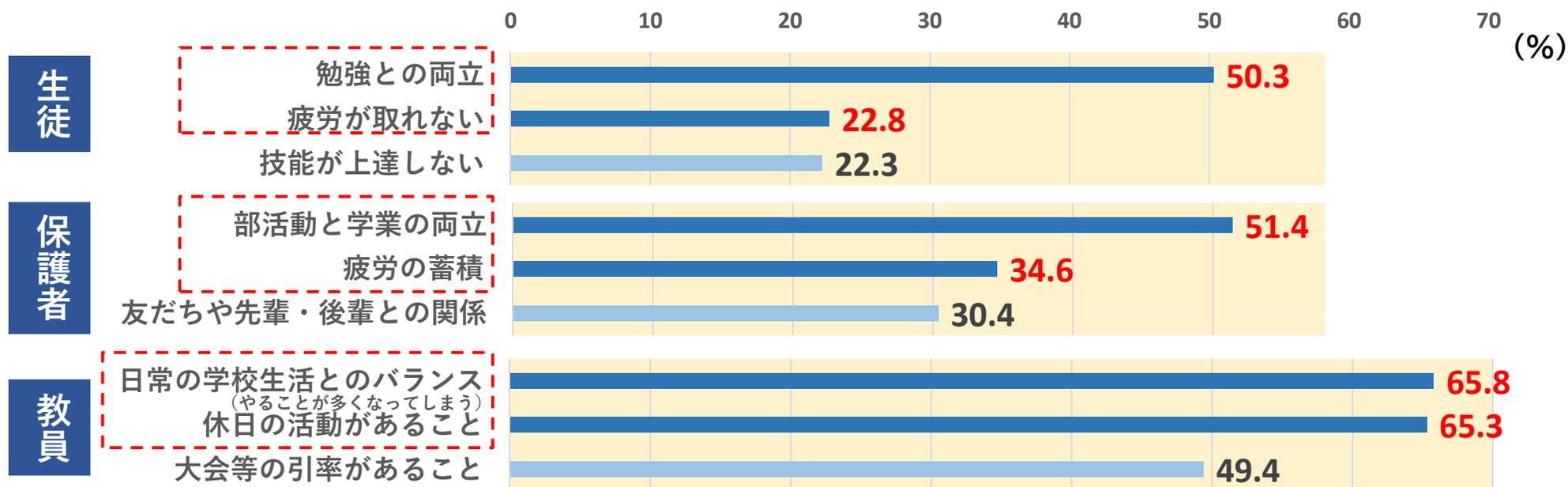
3 STEP1 様々な意見を聞く「アンケートの実施（概要）」

(7) 部活動での心配事や悩みについて

部活動で困っていることや心配なことはありますか（生徒・複数回答可）

お子さんの部活動に関し、保護者として主に心配なことを教えてください（保護者・複数回答可）

指導する上で困っていることは何ですか（教員・複数回答可）



教員の負担感



- 生徒・保護者とも勉強との両立への課題や疲労感を感じていることを心配している割合が高い。
- 教員の約78%が部活動指導について負担感を感じ、やることが多いことや休日の活動があることについて困っていると感じている割合が高い。

3 STEP1 様々な意見を聞く「アンケートの実施（概要）」

(8) 今後の部活動について

今後、部活動はどのようになって欲しいと思いますか

※上位5項目を表示

生徒		保護者		教員	
初めての人でも気軽に参加できるような楽しむことを中心とした活動をしたい	36%	先生の負担が減るとよい	50%	教員以外にも指導できる人が増えるとよい	58%
今のままでよい	34%	専門的な指導が受けられるとよい	49%	大会等の引率を保護者に任せたい(現地集合等)	58%
気軽に参加したいときに参加できるとよい	24%	指導する人が増えるとよい	42%	地域の協力を得て、教員がいなくても活動できるようにする	47%
試合(練習試合)やコンクール(合同練習会)等の回数を増やしてほしい	19%	習い事や塾等に影響が出ないようにになったらよい	23%	活動をスリム化(部活動の数を減らしたり、活動時間を減らしたりする)	41%
活動時間を増やしたい 専門の指導者から教えてもらいたい	18%	学校の枠を超えて複数校で活動できる環境があるとよい 今のままでよい	16%	地域のクラブチーム等と連携して指導してもらおう機会を設ける	27%

「初めての人でも気軽に参加できる活動をしたい」や「今のままでよい」と回答した割合が高い。

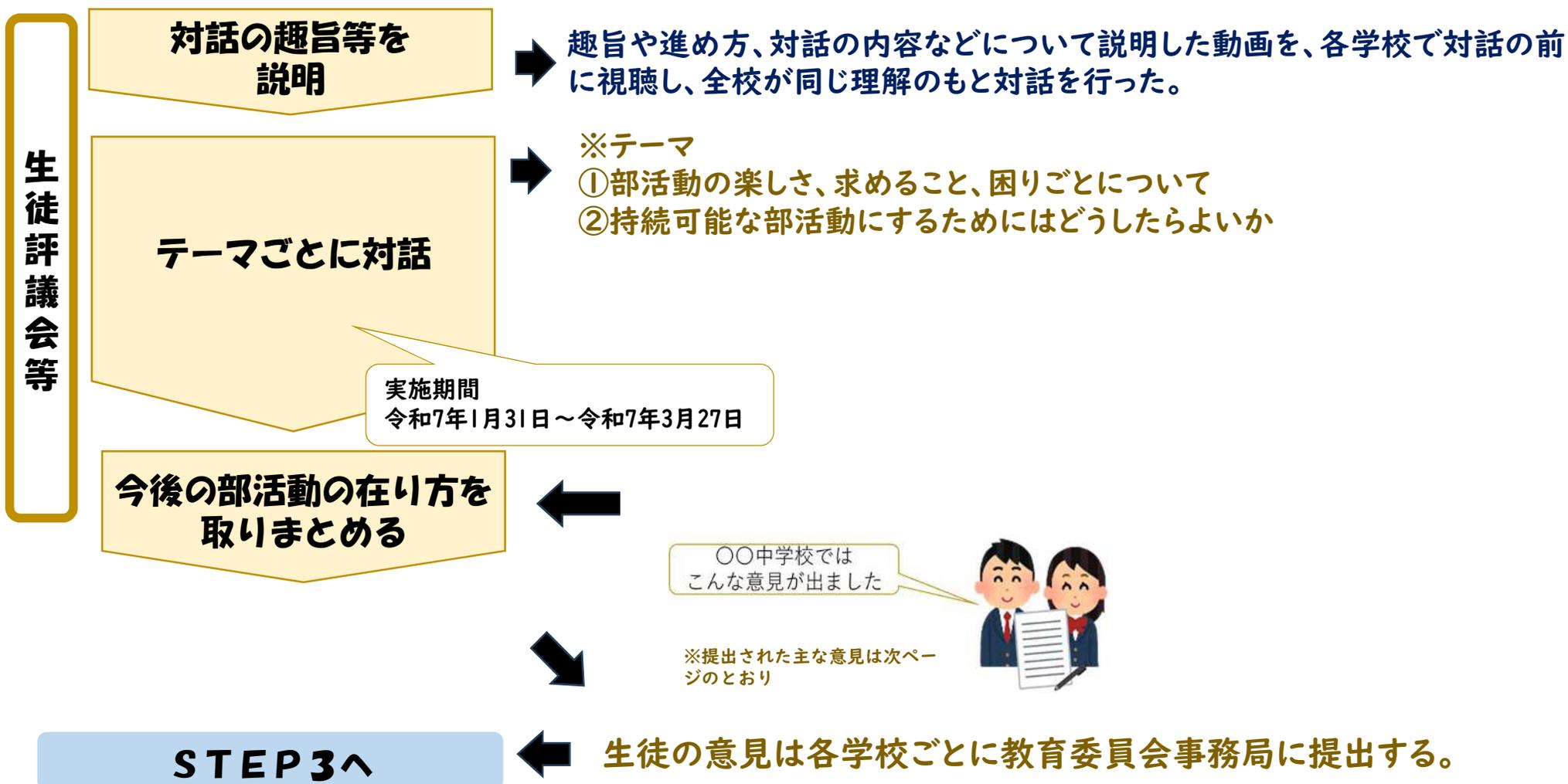
「教員の負担軽減」と「専門的な指導が受けられる」を希望すると回答した割合が高い。

「教員以外にも指導できる人が増えるとよい」「大会等の引率を保護者に任せたい」と回答した割合が高い。

4 STEP 2 生徒同士で対話を行い意見を集約する

STEP2での 獲得目標

全ての中学校において、生徒が多様な意見を踏まえ、今後の部活動について意見を出す



4 STEP 2 生徒同士で対話を行い意見を集約する

STEP2での 獲得目標

全ての中学校において、生徒が多様な意見を踏まえ、今後の部活動について意見を出す



市内中学校52校からの意見についてその一部をご紹介します。

- ①部活動の楽しさ、求めること、困りごとについて
- ②持続可能な部活動にするためにはどうしたらよいか

多摩区

- ①チームで目標に向かって活動していくのが楽しい。今の現状に満足している。練習時間を増やして欲しい。土日の活動が多く、自分の時間がない。
- ②誰もが楽しめる部活動を目指す。先生と生徒のどちらも負担がないように活動日数を決める。部活動を行ってよい日数や時間を統一すべき。

高津区

- ①部活動は厳しくなくて良い。ただ勝ち進んでいる部活動は厳しくなっているので難しい。先生の負担が多そう。
- ②休み時間や読書の時間を削り、部活動の時間はそのままですべての時間が増えたらよい。

中原区

- ①一つのことを続けることの大切さを学ぶことが大事。専門的な指導者の配置を。
- ②人によって結果を求めたい人と楽しみたい人がいるので、ちょうどいい目標を設定するべき。

幸区

- ①顧問だけでなく、生徒主体の部活づくりをする。専門的な知識を持っている人に指導して欲しい。時間に縛られず、自分たちが納得するまでとことん活動したい。
- ②学習と両立できる時間配分をする。教員の負担を減らす。

麻生区

- ①自分自身の成長を感じることで楽しさを感じられる。顧問主体ではなく生徒主体で活動できる雰囲気が必要。生徒活動や習い事等もあるため、そこは認めてもらいたい。小学生のクラブに部活動生徒と一緒にいたり、教えたりする機会を設ける。
- ②大会の種類を増やして生徒たちのモチベーションが上がるような取組を行う。

宮前区

- ①経験者の先生を顧問に。専門的な指導者が欲しい。ガイドラインの規定内に収めればよい。顧問と話し合える時間が欲しい。
- ②複数の学校でクラブを作る。大人でスキルを持っている人に協力を求める。現地集合を認めてほしい（顧問が大変）

川崎区

- ①部活動に行くために学校に来ている人もいる。活動日が少ない。もっと増やして欲しい。地域の同じ部活動で交流したい。
- ②気軽に「やりたい！」と言える環境づくりがあればよい。合同チームが増えれば出場チームが減るので勝つ確率があるから賛成。やりたい部活動がなければ、クラブチームに入る。



主な 意見

- ・部活動の意義としては、目標に向かって活動すること、成長を感じることに学ぶことなど
- ・学習と両立できる時間配分や、先生と生徒のどちらにも負担がないような活動日数を決めることが必要
- ・顧問だけでなく、生徒主体の部活動づくりをする。大人でスキルを持っている人に協力を求める。誰もが楽しめる部活動を目指すことも必要

5 STEP 3 代表生徒が今後の部活動に対する意見をまとめる

STEP3での 獲得目標

代表生徒が、全市から出た意見を踏まえ、今後の部活動の在り方を話し合っまとめる

○概要

全ての中学校の代表生徒が「部活動における課題や課題解決に向けたアイデア」を出し合いながら、今後の部活動の在り方についての意見をまとめる。

○日時

令和7年8月8日（金） 13時～16時

○場所

川崎市役所本庁舎 2階ホール

○参加者

市立中学校（52校）から推薦された生徒
当日参加者 96名

○テーマ

私たちの部活動をみんなで考える～みんなが楽しい部活動のために～

- （1） 部活動の意義（楽しさ）について
- （2） 部活動の意義を保ちつつ、持続可能な部活動のためには、どんな工夫が必要か

5 STEP 3 代表生徒が今後の部活動に対する意見をまとめる

当日の会議の様子

①テーマを学ぶ



②各グループでのアイデア出し



③各グループの発表



④講評



5 STEP 3 部活動生徒代表者会議の結果

○部活動の意義（楽しさ）について

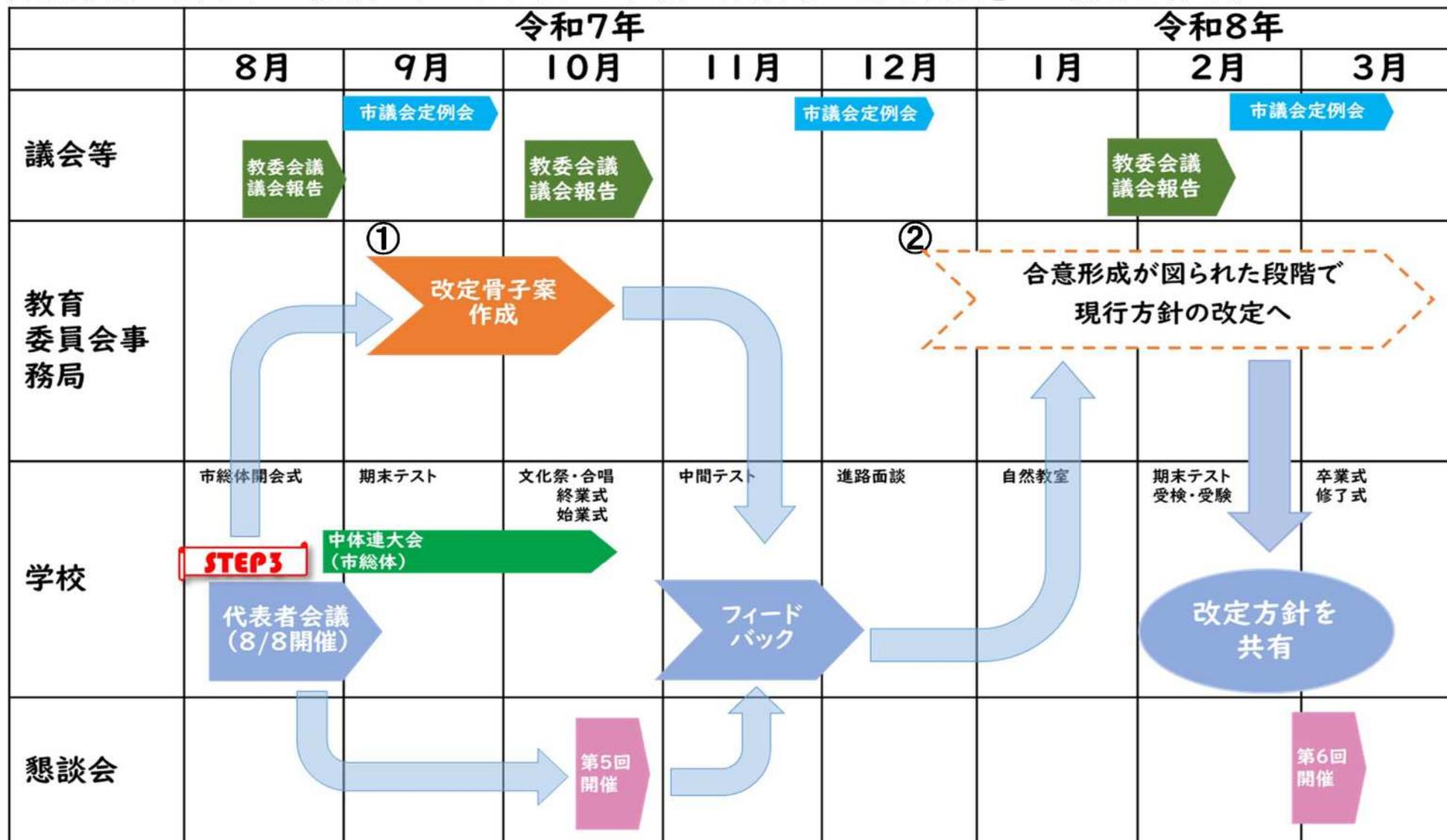
<ul style="list-style-type: none"> 一生懸命に努力することを学ぶ 同じ目標に向かって頑張る 目標を持って達成までの力を身に付ける 互いに喜びを分かち合える 	<ul style="list-style-type: none"> 礼儀・挨拶を学ぶ 社会性を身につけることができる 助け合う力を学ぶ 必要な体力や団結力 人間関係の構築（コミュニケーション能力） 仲間との競争により互いに高め合う（技術向上） 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことができる場 自分の長所を活かす 熱中することで喜びを感じられる場 成功・失敗を経験できる 結果を残して、感謝を伝える 新たに好きなものを増やす
--	--	--

○部活動の意義を保ちつつ持続可能な部活動とするためには、どんな工夫が必要か

↓考え方の違い	↓活動内容・取組	↓合同チーム	↓地域との連携
<p>(意見) みんなで活動しやすくなる取組をする (理由) 部活に対する考え方が人によって違う (アイデア) ・共通の目標、各自の目標 ・雰囲気づくり、励まし合い ・話し合う（大事にしたいことの共有、感謝を伝える機会）</p>	<p>(意見) 自分たちでメニューを決める (理由) 主体性、思考力が高まる (アイデア) ・目標を明確に ・強度も高まる</p>	<p>(意見) 合同チームでも参加できる練習・大会を増やす (理由) 少ないメンバーでもレベルアップ (アイデア) ・他校顧問、外部コーチの指導 ・小学生に向けた体験部活</p>	<p>(意見) 地域と協力しながらブカツの魅力をアピールする (理由) 部員を確保して活動の幅を広げたい (アイデア) ・地域と交流 ・結果を出す（指導者）</p>
<p>(意見) 部への参加スタイルを自分で決める (理由) 人によって部への考え方が違う (アイデア) ・引退時期を自分たちで決める ・たくさん練習したい人のために自主練を増やす</p>	<p>(意見) 大会の内容、日程を考える (理由) 全員で目標に向かえるので (アイデア) ・市総体 ・非公式の発表会、大会</p>	<p>(意見) 先生の中でも役割分担する (理由) 色々な練習方法を取り入れて的確な指示をすることが大切 (アイデア) ・得意分野、種目別、ポジションごと</p>	<p>(意見) 地域の全てをお借りします ～笑顔で返そう地域のご恩～ (理由) 青春したい (アイデア) ・施設を借りる ・保護者、地域の方の協力</p>
<p>(意見) 部でミーティングを大切にして、一人一人の意見を反映させる (理由) 人によって部への考え方が違う (アイデア) ・一人一人の意見を取り入れる ・アドバイスや意見交流</p>	<p>(意見) 生徒主体 (理由) 顧問と生徒の負担をなくす (アイデア) ・話し合い ・納得のいく活動 ・相手の考えを理解する</p>	<p>(意見) Class roomを活用する (理由) 同じ場所や時間で集まるのは難しいけれど、共有は大切 (アイデア) ・meet、連絡、動画、話し合い</p>	<p>(意見) OBOG、地域の方から指導を受ける (理由) 技術向上、モチベーションアップ、人間関係が広がる</p>
			<p>(意見) 楽しさを知ってもらい部員を増やす (アイデア) ・小学生に部活動を紹介 ・楽しさを知ってもらう</p>

6 今後の予定について

- ①会議での生徒の意見をもとに「川崎市立学校の部活動に係る方針」の改定骨子案を作成し、その内容を各学校を通じて生徒にフィードバックする。
- ②合意形成が図られた段階で、「川崎市立学校の部活動に係る方針」の改定を行う。



参考資料

1 部活動の意義等

➤ 部活動の意義と留意点

出典：「中学校学習指導要領（H29文部科学省告示）」

出典：「中学校学習指導要領（H29文部科学省告示 令和6年12月 一部改訂）解説（保健体育編）」

- ・ 部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるもの
- ・ 学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高い。
- ・ 生徒が参加しやすいように実施形態を工夫するとともに、生徒の生活全体を見渡して休養日や活動時間を適切に設定するなど、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮すること。
- ・ 部活動は教育課程外の活動であり、その設置・運営は法令上の義務として実施されるものではないことから、学校の判断により実施しないこともあり、また全ての生徒が一律に加入しなければならないものではないこと。

➤「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」(R2.9)【文部科学省】

- ・働き方改革の視点も踏まえ、**教師の負担軽減**を実現することが必要
- ・具体的な方策としては、**休日の部活動の段階的な地域移行を図ること、合理的で効率的な部活動の推進等**の取組を進める。

➤「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」(R4.12)【スポーツ庁・文化庁】

- ・**少子化が進む中、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しめる機会の確保**に向けて、速やかに部活動改革に取り組む。
- ・部活動の地域移行に当たっては、「**地域の子供たちは学校を含めた地域で育てる**」という意識の下、生徒の望ましい成長を保証できるよう、**地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備**

3 市立中学校の部活動の現状（1）

部活動の状況 基本情報（令和6年5月時点）

- ・ 中学校数 = 52校
- ・ 生徒数 = 29,922名
- ・ 部数 = **749部（運動部520部/文化部229部）**
- ・ 入部率 = 全生徒数の**約82%**（運動部 約60%/文化部 約22%）（24,659名）

主な運動部				
種目	設置校数	部員数	部活動指導員配置数	休日実施部活動数
バスケットボール	52	2,737	8	52
バレーボール	50	1,727	9	50
バドミントン	50	2,293	9	50
陸上競技	50	1,913	2	50
サッカー	50	1,662	7	50
その他	268	7,698	29	267
合計	520	18,030	64	519

主な文化部				
種目	部活動数	部員数	部活動指導員配置数	休日実施部活動数
吹奏楽	51	2,188	6	51
美術	50	1,643	0	42
演劇	21	475	0	18
家庭科	18	413	0	13
パソコン	17	425	1	13
その他	72	1,485	1	59
合計	229	6,629	8	196

※部活動指導員配置数は、令和7年3月末のもの

3 市立中学校部活動の現状（2）

（1）令和6年度 合同部活動の状況

種目	合同チーム数	参加校数
サッカー	5	10
ソフトボール	1	3
軟式野球	1	3

※R6年度川崎ブロック大会の参加予定校より抽出

（2）主な大会の実施状況

川崎市

5～7月 県総体川崎ブロック大会

※16種目 のべ62日（種目により開催日数は1～7日）
※会場は、市内各中学校、市スポーツ施設（とどろきアリーナ、カルッツかわさき、御幸球場、等々力陸上競技場等）

7～8月 神奈川県中学校総合体育大会

※陸上は10月、駅伝は11月開催

8～10月 川崎市中学校総合体育大会

※17種目（駅伝含む） のべ50日（種目により開催日数は1～7日）
※3年生の参加は任意

各競技種目団体（協会）主催の大会

※時期・回数は各種目ごとに異なる。
※競技団体主催大会（市民大会、春季・秋季大会、新人戦など）が年間1～6大会、中体連と競技団体共済大会が年間0～3大会ある。

横浜市

5～7月 横浜市中学校総合体育大会

※16種目 のべ128日（種目により開催日数は1～30日）
※県総体横浜ブロック大会を兼ねている。
※会場は、市内各中学校、市スポーツ施設
※水泳は8月、陸上（駅伝、ロードレース含む）は9～11月、ダンスは8,2月に開催

7～8月 神奈川県中学校総合体育大会

※陸上は10月、駅伝は11月開催
※3年生の引退

各競技種目団体（協会）主催の大会

※時期・回数は各種目ごとに異なる。

川崎市の方が、中体連主催の大会が多い。

3 川崎市立学校の部活動に係る方針（概要）

「川崎市立学校の部活動に係る方針」

➤ 主な内容

○適切な運営のための体制の整備

各学校単位での「学校部活動活動方針」の策定、保護者等への周知、部活動指導員や外部指導者の活用

○合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進
適切な指導の実施、体罰のない部活動指導

○バランスのとれた部活動の運営

休養日について、学校の課業期間中は週当たり2日以上（平日、土曜日及び日曜日とも）に少なくとも1日以上）を設けるようにする。

1日の活動時間は、平日は2時間程度、休業日は3時間程度とする 等

○生徒のニーズを踏まえた部活動環境の整備

生徒の多様な選択肢の部活動の設置、地域との連携 等

○学校単位で参加する大会等の見直し

生徒、家庭、顧問の負担等を考慮し、大会等への参加について精査する 等

4 部活動指導員の配置

平成30年度から、市立中学校等に**部活動指導員※を配置**し、学校部活動における技術指導や大会引率の支援を実施しています（令和6年度は72名を配置）。

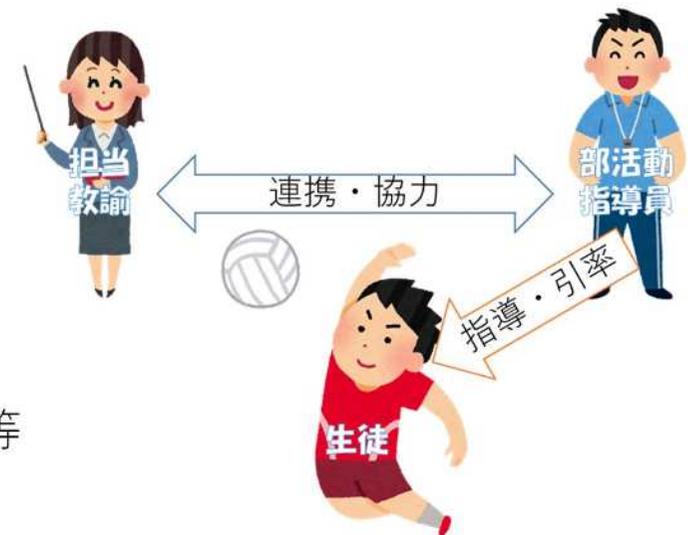
※中学校、高等学校等において、顧問教員に代わって部活動指導を行う会計年度任用職員として配置。校長の監督を受け、部活動の技術指導や大会への引率等を行うことを職務とする。

【部活動指導員の導入目的】

- 顧問業務を代わりに指導員が担い、教員の負担を軽減する。

【主な業務】

- 実技指導、安全・障害予防に関する知識・技能の指導
- 学校外での活動（県内大会・練習試合等）の引率
- 用具・施設の点検・管理
- 部活動の管理運営（会計管理等）
- 保護者への連絡、年間・月間計画の作成
- 生徒指導に係る対応、事故が発生した場合の現場対応 等



5 休日の部活動の地域移行における実践研究

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」では、**休日の部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行**について、**地域の実情等に応じて**可能な限り早期の実現を目指すとされており、本市では、効果や課題の検証のため、実践研究を実施している。

※令和6年度実績 市立中学校9校24部活

【運動部】

- ・ 大師中学校 (男子バレーボール、男女バスケットボール、ソフトボール、陸上競技)
 - ・ 平間中学校 (女子バレーボール、男子ハンドボール、軟式野球、剣道、サッカー)
 - ・ 東高津中学校 (剣道、バスケットボール、バドミントン、卓球、陸上競技)
 - ・ 白鳥中学校 (男子バスケットボール、ハンドボール、バドミントン、卓球、柔道)
- (運営主体)
株式会社アーシャルデザイン
- (運営主体)
株式会社サクシード

【文化部】

- ・ 西中原中学校 (演劇) (運営主体) 株式会社アーシャルデザイン
- ・ 日吉中学校 (吹奏楽) (派遣元) 昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部
- ・ 稲田中学校 (吹奏楽)
- ・ 橘中学校 (吹奏楽) (派遣元) 洗足学園音楽大学
- ・ 高津中学校 (吹奏楽)

6 市立中学校の部活動に係る懇談会

「川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」の開催

部活動の現状や課題等を共有し、部活動に関する意見を伺い、今後の取組の参考とすることを目的として、これまで4回開催した。

○第1回 令和5年11月28日

主な内容

- (1) 国の動向と部活動の意義、他都市の状況
- (2) 本市の部活動の現状
- (3) 本市のこれまでの取組
- (4) 本市における今後の進め方

○第2回 令和6年3月19日

主な内容

- (1) 部活動アンケートの結果について
- (2) 「休日の部活動の地域移行」拠点校の実践研究報告
- (3) 関係団体への意見聴取の報告
- (4) 令和6年度の予定について

○第3回 令和6年9月13日

主な内容

- (1) これまでの取組状況
- (2) 本市における今後の進め方

○第4回 令和7年3月26日

主な内容

- (1) 部活動をめぐる国や他政令市の動向
- (2) 本市の今年度の取組
- (3) これからの川崎市の部活動の方向性

懇談会委員一覧（令和6年度）

所属（役職）	専門等
専修大学文学部（教授）	学識者
田園調布学園大学人間福祉学部（教授）	学識者
神奈川県職場・一般吹奏楽連盟（理事長）	文化芸術（吹奏楽）
（株）プレルーディオ（ディレクター）	文化芸術（演劇）
川崎市スポーツ協会（会長）	スポーツ全般
川崎市文化財団（事務局長）	文化活動全般
川崎市中学校体育連盟（副会長）	運動部活動
神奈川県中学校文化連盟（地区長）	文化部活動
川崎吹奏楽連盟（理事長）	吹奏楽部
川崎市PTA連絡協議会（副会長）	保護者
川崎市立中学校の校長	学校代表